

1 単元名 Program7 What Is the Most Important Thing to You ?

2 単元について

(1) 単元観

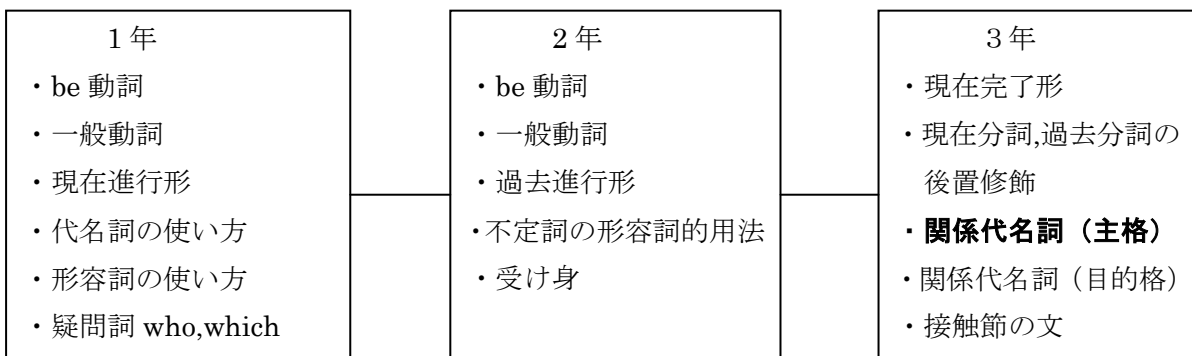
本単元は、国際協力をめざして、ボランティア活動を行いながら発展途上国を支援するとともにそれらの国々のために働く意欲のある人材の育成に取り組むひとりの日本人、山本敏晴さんの活動について書かれた3つのセクションから構成されている。セクション1には、彼が国際協力に興味を持ったきっかけ、セクション2・3では、彼が活動を通して収集した外国のこどもたちの描いた絵が紹介され、現在の活動と将来への展望が書かれている。

グローバル化はもとより、2020年に東京オリンピックの開催が決定し、現在、国際言語としての英語学習の強化が求められている。生徒たちが将来、英語を使って日本文化の発信や国際交流、ボランティア活動などに積極的に取り組むためには、中学校の段階から身近な話題についての理解や簡単な情報交換だけでなく、日本の伝統文化や歴史、環境問題について知り、自分たちの生活を見直したり比較したりして考えることが大切である。

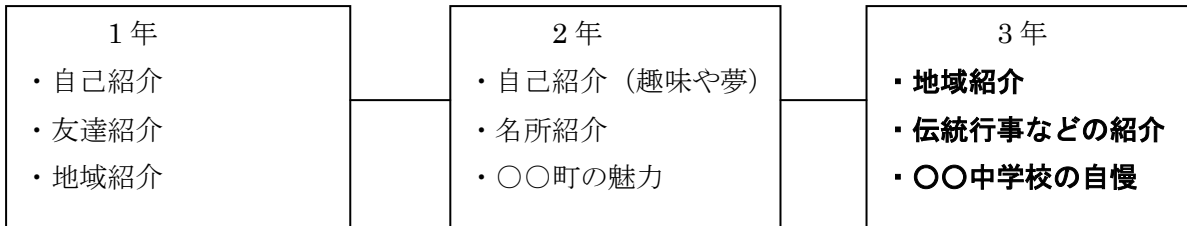
本単元は、国際協力について取り上げており、外国の様子や同年代の子供達の考えを知る機会となる。国際協力という言葉は、東日本大震災などで話題になったり、難民受け入れなどのニュースで取り上げられたりしているが、生徒たちの日常生活の中で話題になることはそう多くはない。そこで生徒の「国際協力」に関する知識や実態を知り、現状について考えさせることが内容理解の一助になると考える。新しい言語材料としては、関係代名詞(主格)を扱う。この学習により、人や物について詳しく説明することができるようになり、自分の住む地域や行事、学校について発信する際に、表現の幅を大きく広げることができる。事前に、生徒が代名詞の役割を理解しているか、英語の特徴である後置修飾の語順にどの程度慣れているのか実態をつかむ必要があると考える。「聞くこと」「読むこと」の言語活動では、絵や写真などを補足の資料として用いることで理解を深めさせ、その内容に関する簡単な質問に答えることができるよう支援していきたい。また、「書くこと」「話すこと」の言語活動では、聞き取った情報について内容を整理し、その内容を英語で表現する力を身につけさせたいと考える。

(2) 指導内容の系統

① 言語材料の系統性



② 言語活動の系統性



(3) 生徒の実態

① 学級集団の実態 (在籍 男子〇〇名, 女子〇〇名, 計〇〇名)

本学級の生徒たちは、落ち着いて、楽しく学習に取り組んでいる。わからないことがあれば質問することができる生徒が多く学習の雰囲気はよい。しかし、一斉授業では発問に対して積極的に発言する生徒が少ないため、学習がスムーズに進まないことがある。意識調査によるとグループやペアでの活動を好み、その中では自由に発言できると回答している。

② 題材に関わる実態

学習前のアンケート調査の項目と集計結果は次の通りである。

アンケート調査 (男子〇〇名 女子〇〇名 欠席〇名 調査日 年 月 日)

本時に関連する既習事項

下線の語が指すものに○を書きなさい。	正解者数
1 This camera is new. <u>It</u> is a present from my father.	
2 Kyoto is a nice place. <u>It</u> has a lot of places to visit.	
3 I have a good friend. <u>He</u> is in Australia.	
4 There are three elephants . <u>They</u> can do tricks.	
1～4すべて正解	
() 内の語(句)をいれて、英文を完成させなさい。	正解者数
1 Look at car. (that) あのを車を見て	
2 The book is mine. (on the desk) 机の上の本はわたしのです。	
3 The cat is mine. (white) その白い猫はわたしのです。	
4 Do you have anything ? (to drink) 何か飲み物をもっていますか	
5 He ate potatoes. (poisoned) 彼は毒入りのジャガイモを食べた。	
1～5すべて正解	
Who?の意味を書きなさい。	
Which?の意味を書きなさい。	

国際協力に関すること

ボランティアの経験はありますか	はい	いいえ
国際協力からイメージすること 貧しい子を救う、グローバル化、NGO ユニセフ、国境なき医師団、募金、エコキャップ集め、PKO、人権規約		
自分にできる国際協力はあると思いますか	募金 名、エコキャップ回収 名	

(考察)

代名詞が指している人物やものを正しく答えられた生徒は○割程度であった。グループやペアでの活動を通して、教え合いの場を設け、理解を深めさせたい。関係代名詞は、後置修飾の一種である。そして後置修飾は日本語にはない特徴である。そのため、日本語と同じ語順の「形容詞+名詞」は正解する生徒が多いが、名詞を後から説明するという2、4の「名詞+説明部分」となる後置修飾の問題になると正答率が低い。現時点では、現在分詞や過去分詞による後置修飾については未習であるが、関係代名詞の学習前に扱うことになっている。絵を使用した表現の練習を繰り返し行い、後置修飾の語順に習熟させておけば、関係代名詞の学習にスムーズに入ることができるだろう。

ボランティアに参加した経験は○弱と少ない。実際にはもう少し多いと思われるが、自分の行った活動がボランティアだと認識できていないようである。国際協力という言葉から何をイメージするかをまったく挙げることのできない生徒もいた。自分にできる国際協力に関しては、○名が募金、学校で取り組んでいるエコキャップ回収○名という回答であった。本校では生徒会活動として、インド地震の募金に取り組み、協力した生徒もいるが、それが国際協力の一助であることを意識していなかったようだ。本単元の学習を通して、国際協力やボランティアへの興味・関心を喚起したい。本単元は、広い視野から国際理解を深め、地球環境について深く考えさせる題材である。そこで、発展途上国の現実や同世代の子供たちが描いた「自分にとって最も大切なもの」の絵に込められたメッセージを読み取ることで、本当の国際協力とは何か、今の自分にできることは何かを考えさせたい。

言語材料としては関係代名詞の主格(who,which,that)を学習する。生徒は、名詞(単語)が人、物、動物のうちの何を示すかは、ほぼ理解できているので詳しく説明したい名詞を見つけられれば、先行詞による関係代名詞の使い分けは、スムーズに理解できると思われる。関係代名詞の使用場面は、「生徒の身近な暮らしに関わる場面」であり、「情報を伝える」のうち「説明する」「報告する」「発表する」などの言語活動である。そこで、表現練習では、ペアやグループで「聞いたり、読んだりして理解した内容」について情報を整理し、別の誰かに知らせる目的で「書いたり、話したりして伝える活動」を行わせ、4技能を統合的に活用したコミュニケーション活動を工夫したい。基本的な知識が不足している生徒が数名いるので、ペアで助け合うことやゲーム的な要素も取り入れることで学習に前向きに取り組ませたい。

3 目標

ア コミュニケーションへの関心・意欲・態度	イ 外国語表現の能力	ウ 外国語理解の能力	エ 言語や文化についての知識・理解
関係代名詞(who,which,that)を使い、ある人物やものの情報2つを一文で、積極的に伝えようとしている。	関係代名詞(who,which,that)を使い、ある人物やものの情報2つを一文で説明したり、質問したりすることができる。	英文を読んで、山本敏晴さんの発展途上国での活動、外国のこどもの描いた絵から伝わるメッセージや「お絵かきプロジェクト」の意義を理解している。	①先行詞が人、物、事柄などにより、関係代名詞(主格)を使い分けることができる。 ②関係代名詞(主格)を使った、英文の構造を理解している。

4 指導計画（7時間扱い）

主な学習活動と内容	時数	評価（観点）
関係代名詞（who）を使った英文の構造に慣れ、文を作ろう。	1 本時	人物について、2つの情報を一文にして、積極的に表現しているか、発表や観察により確認する。 （コミュニケーションへの関心・意欲・態度）
関係代名詞（which,that）を使った英文の構造に慣れ、日本のものに関するクイズをつくろう。	1	関係代名詞 who と違いに気づき、物について関係代名詞（which）を使って表現しているか、発表や観察により確認する。（言語や文化に関する知識・理解）
関係代名詞（that）を使った英文の構造に慣れ、文を作ろう。	1	さまざまな人やものについて関係代名詞 who,which,that いずれかを使って、クイズを作ることができたか、発表や観察により確認する。 （外国語表現の能力）
山本敏晴さんのボランティア活動についての内容を正しく読み取ろう。	1	絵や写真を参考にして、内容を正しく読み取ることができたか、Q and A, TF テスト、穴埋めテストなどを実施し、理解しているか確認する。 （外国語理解の能力）
発展途上国の子どもたちの描いた絵や説明から彼らのメッセージを読み取ろう	1	
山本さんの活動のこれからを読み取り、自分たちにできることについて考えよう。	1	
関係代名詞（who,which,that）を使い分け、場面に応じて人や物を説明しよう。	1	身の回りのものや人物について、関係代名詞を使って、英語で説明することができる。 （言語や文化に関する知識・理解） （外国語表現の能力）

5 本時の指導

（1） 目標

- ・有名な人物について、間違いを恐れずに積極的に関係代名詞 who を使って詳しく紹介しようとしている。（コミュニケーションへの関心・意欲・態度）

（2） 研究との関連

研究の仮説

- ・言語の使用場面や働きを念頭に置き、場面設定の導入を工夫すれば、生徒は興味を持って学習に取り組み、既習事項を使って表現するようになるだろう。
- ・学習形態を工夫したり（ペアやグループでの活動）デジタル教科書を活用して繰り返し学習をすれば、基礎・基本が身につき、意欲的に取り組むだろう。

本時は、生徒が最後まであきらめることなく学習活動に取り組めるよう、既習事項を使った中1、2年生レベルの簡単なQandAから新しい言語材料を導入し、生徒の興味を喚起したい。また、ゲームでは、ペアで協力しながら活動させることで、わからないことを質問しやすい環境を作り、楽しみながら学習に取り組みせたい。

(3) 展開

学習活動と内容	時配 形態	指導上の留意点と評価 留意点 (○) 評価 (◎)	資料 教具
<p>1 Warm Up (1) あいさつをし、既習事項を使って日常生活についての簡単な質問に答える。 Good afternoon, how are you? Tell me what the weather like? Do you know what Kate eat for lunch?</p> <p>2 Introduction (1) ALT と JTE の対話を聞き、関係代名詞を含む英文の意味を考える。 ALT : Do you know who this girl is? JTE : Yes, she is Malala. ALT : Do you know anything about her? JTE : She got the Nobel peace prize last year. ALT : That's right. She is a girl who got the Nobel peace prize.</p>	<p>7分 一斉</p> <p>15分 一斉</p>	<p>○はじめに全体で挨拶を交わしてから、英語で簡単な質問をし、英語学習の雰囲気を作る。</p> <p>○簡単な疑問文、学習したばかりの間接疑問文を織り交ぜて問いかける。</p> <p>○下位の生徒には、Yes/No で答えられる簡単な問いかけをする。</p> <p>○写真を見せ、時には質問を生徒に投げかける。ALT は関係代名詞を用いて、Malala is a girl who に続けて、表現して聞かせる。</p> <p>○数回、対話を聞かせてから、板書する。</p> <p>○who 以下は色を変えて提示し、後置修飾であることに気づかせる。</p>	<p>写真</p>
<p>(2) 気づいたことを発表する。 ・ 2文が一緒になったら she がない ・ who が入ったが、ピリオドだ ・ who がある。誰? ではなさそう</p> <p>(3) マララさんに関する情報を聞き、ALT のあとについて、who を使って表現練習をする。</p>		<p>○「説明している」という意見が出たら、英語の特徴である後ろからの名詞の修飾であるという説明をする。</p> <p>○JTE は、生徒にマララさんに関する別の情報を英語で与える。</p>	<p>マララさんの写真</p>

関係代名詞 who を使って、写真の人物を紹介しよう。
 Malala is a girl. She got the Nobel Peace prize in 2014.
 Malala is a girl who got the Nobel peace prize in 2014.
 (マララさんは 2014 年にノーベル平和賞を受賞した女の子です。)

<p>(4) Walt Disney について、関係代名詞 who を使った表現練習を行う。</p> <p>3 Practice</p> <p>(1) グループで協力して情報を集め、有名人についての説明文を完成させる。</p> <p>①ゲームの説明を聞く</p> <p>②4～5名のグループを作り、グループ内でペア AB をつくる。</p> <p>③人物の名前や何をした人物かの情報を集め、関係代名詞を使って英文を完成させる。</p> <p>Group1 ↔ Group4 Group2 ↔ Group5 Group3 ↔ Group6</p> <p>Group3 Group2 Group1 <table border="1" style="display: inline-table; margin-right: 20px;"> <tr><td> </td><td> </td></tr> <tr><td> </td><td> </td></tr> </table> <table border="1" style="display: inline-table; margin-right: 20px;"> <tr><td> </td><td> </td></tr> <tr><td> </td><td> </td></tr> </table> <table border="1" style="display: inline-table;"> <tr><td>B</td><td>A</td></tr> <tr><td>B</td><td>A</td></tr> </table> <table border="1" style="display: inline-table; margin-right: 20px;"> <tr><td> </td><td> </td></tr> <tr><td> </td><td> </td></tr> </table> <table border="1" style="display: inline-table; margin-right: 20px;"> <tr><td> </td><td> </td></tr> <tr><td> </td><td> </td></tr> <tr><td> </td><td> </td></tr> </table> <table border="1" style="display: inline-table;"> <tr><td>B</td><td>B</td></tr> <tr><td>A</td><td>A</td></tr> <tr><td>A</td><td> </td></tr> </table> </p> <p>④完成した英文は、ALT か JTE のチェックを受ける。</p> <p>(2) 各グループでカードゲームを行う。</p> <p>4 Consolidation</p> <p>・ノートに板書事項を写す。</p>									B	A	B	A											B	B	A	A	A		<p>12分</p> <p>ペア</p> <p>グループ</p> <p>10分</p> <p>グループ</p> <p>5分</p> <p>一斉</p>	<p>○マララさん (Walt Disney) について、What did he(she)do?で問いかけ、生徒の知っている情報を引き出す。</p> <p>○ルール説明は、簡単な英語を使い、短時間で行う。</p> <p>○Group 1 の動きを例に挙げ、説明を行う。</p> <p>○前後のグループで情報交換を行う。(Group1 は Group4 に情報を集めに行く。)</p> <p>Group1 のペア A は Group4 のペア B から情報をもらう。Group4 のペア A は Group1 のペア B から情報をもらう。2つの情報を集めたら AB の役割を交代する。</p> <p>○情報を集める際は、「聞くこと」に集中させるためにボードは持たせない。</p> <p>○メモは英語でも日本語でもよいこととする。</p> <p>○グループで協力して英文を作るよう指示する。</p> <p>○基本的な既習事項ができていない生徒の様子を観察し、机間指導しながら支援する。</p> <p>◎積極的に関係代名詞 (who) を使った英文を作っているか。(発表)</p> <p>○人の名前 (緑) 職業 (青) 行ったこと (黄色) 3種類のカードを選び、意味の通る英文が作れたら、その英文を読み、ポイントとする。グループ内で競わせる。</p> <p>○重要表現をノートに写し、自分の言葉で説明を加えて書くように指示する。</p>	<p>ウォルトディズニーの写真</p> <p>ワークシート (写真付き)</p> <p>ホワイトボード</p> <p>ペン</p> <p>カード</p>
B	A																														
B	A																														
B	B																														
A	A																														
A																															

(4) 板書計画

Wednesday, November 11th, 2015

関係代名詞 who を使って人物を説明しよう。

Malala is a girl. She got the Nobel Peace prize in 2014.

Malala is a girl who got the Nobel peace prize in 2014.

(マララさんは 2014 年にノーベル平和賞を受賞した 女の子 です。)